

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 会報

No. 307

2025年12月発行

NPO法人高齢社会をよくする女性の会
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-1
第31宮庭マンション802号室
TEL. 03-3356-3564
FAX. 03-3355-6427
郵便振替 00100-0-79477



開会前の熱海市齊藤市長と木村理事長

熱海大会を終えて	理事長 木村 民子 …… 1
基調講演Ⅰ	
男女共同参画・老若男女の生き抜く力 名取はにわ …… 2	
基調講演Ⅱ	
昭和歌謡に見る女のあしあと 林家たけ平 …… 5	
シンポジウム	
医療と介護の連携で安心の在宅ケアを …… 6	
交流会、閉会式 …… 12	
オプション企画 まち歩き・湯けむりコース …… 13	
オプション企画 起雲閣スルーガイド …… 14	
全国大会in熱海「協賛金」ご協力御礼 …… 15	
本の紹介・ホームページリニューアルのお知らせ ・事務局だより・編集後記 …… 16	

第44回高齢社会をよくする女性の会 全国大会in熱海

2025年10月27日(月)・28日(火) 於：熱海市有形文化財 起雲閣

2025未来に向けて ゆっくりとことん話そじゃないか

NPO法人高齢社会をよくする女性の会
理事長

木村 民子

熱海大会を終えて

熱海大会はこれまでの全国大会とはまるで趣きの違う大会となりました。ガラス戸越しに見える庭の緑を背景とした小さな会場に、両日ともに150名近くの参加者が全国からお越しくださいました。そして皆様は口々に楽しかったと帰られ、その笑顔を見て、大成功！私はほっと胸をなでおろしました。

会員が1人もいなかった熱海市での開催は、各地の会員有志が企画運営を担う実行委員会方式はできません。ご縁の深かった熱海市民大学の運営委員に声をかけ、有志の方々と共に準備会を立ちあげました。小規模ながら「楽しく学ぶ」という熱海らしさを打ち出したものの、実施に当たっては宿泊先や移動手段、手荷物の預かりなどの課題があり、一つ一つクリアしてきました。

市長をはじめ、市の職員、社協、医師会の方々にも知恵と力をお借りしながら、何とか

開催にこぎつけました。

1日目の基調講演は名取はにわ先生に「男女共同参画」をテーマに、国の取り組みや世界の中の日本の現在地、課題など、元男女共同参画局長ならではの講演をしていただきました。続いて落語家の林家たけ平師匠は昭和歌謡から女性の生き方を炙りだし、軽妙なトークは会場を笑いの渦に巻き込みました。2日目のシンポジウムでは厚労省の江口満総務課長から医療・介護の改定計画等の説明をいただき、若いシンポジストたちは懸命に熱海の実情を訴え、会場との質疑応答も熱を帯びました。

またホテルでの交流会は熱海市民による笛伶会の太鼓の演奏にも負けないような大声で参加者同士の交流の様子が見られました。真剣に学び、意見を交わし、笑い合うことがいかに大切なことかが実感でき、記憶に残る大会になったと自負しています。

男女共同参画・老若男女の生き抜く力

学校法人日本社会事業大学
理事長 名取 はにわ氏

東京大学法学部、埼玉大学政策科学研究科を卒業。
1999年総理府大臣官房男女共同参画室長として男女共同参画社会基本法制定に携わる。2005年内閣府男女共同参画局長。前NPO法人日本BPW連合会理事長。2018年瑞宝中綬章叙勲。

講師紹介：袖井 孝子



老若男女の「生き抜く力」を 男女共同参画の視点から考える

SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、2015年9月の国連サミットで193の加盟国が全会一致で採択された、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。先進国も発展途上国も共に取り組むべき目標であり、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

その中でも、目標1～5は、残りの12の目標すべてに深く関わっています。特に目標5「ジェンダー平等を実現しよう」は、性別による差別や暴力をなくし、誰もが平等な機会と権利を得られる社会を目指すものです。具体的には、女性や女兒に対するあらゆる差別の撤廃、暴力の排除、教育や医療へのアクセス向上、政治や経済の分野における女性の参画促進、そして無報酬の家事労働の適切な評価などが含まれます。他のすべての目標の達成は、このジェンダー平等の実現にかかっているとと言っても過言ではありません。

国連と共に歩んだ男女共同参画行政

日本の男女共同参画行政は、国連と歩調を合わせて進められてきました。今年、1995年に開催された第4回国連世界女性会議（北京女性会議）から30年の節目にあたります。私は当時、総理府男女共同参画室長としてこの会議に参加し、日本から約6,000人を超える女性が中国に渡り、世界の女性たちと交流した熱気を肌で感じました。

その熱気が冷めやらぬ1999年6月、男女共同参画社会基本法が衆参両院で全会一致により可決・成立しました。法律の前文には、「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけ、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要」と明記されています。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー・ギャップ指数 日本は148か国中118位と低迷

しかしながら、日本のジェンダー平等の現状は、世界と比べて依然として遅れています。世界経済フォーラムが毎年発表しているジェンダー・ギャップ指数によると、2025年の日本の順位は148か国中118位です。この指数は、教育・政治・健康・経済の4分野でジェンダー平等を数値化し比較するものです。教育分野では66位ですが、高等教育における女性比率は112位と低く、下から数えて36番目。他の先進国では女性の高等教育進学率が男性を上回る国も多く見られます。政治分野では125位と極めて低く、健康分野は50位と比較的高水準。経済分野では112位で、男女間賃金格

差は93位、管理職比率は127位と、いずれも低位にとどまっています。

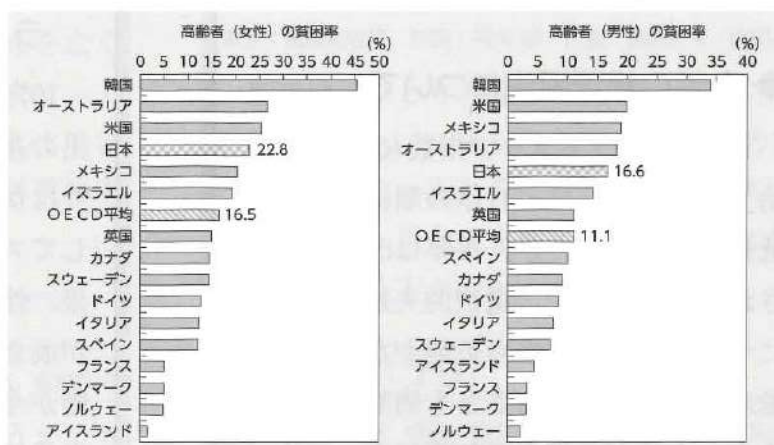
この背景には、日本の女性が家事・育児・介護などを主に担っている現状があります。これらの負担が、結果として高齢女性の貧困につながっているのです。

ようやく、女性活躍推進法により、雇用主に対して男女別賃金の報告が義務づけられるようになりました。また、男性の育児休業取得率も徐々に向上しています。男性が家事・育児に積極的に関わることで、子どもの出生率にも良い影響があることがわかっています。

日本の明るい未来のためにも、一日も早く、誰もが自分らしく生き抜ける男女共同参画社会の実現を心から願っています。

貧困とジェンダー

日本の高齢者の貧困率は、女性が22.8%、男性が16.6%で、いずれもOECD平均を上回る。国際的な傾向と同様に女性の方が高い。SDGsの目標1「貧困をなくそう」にも関連。

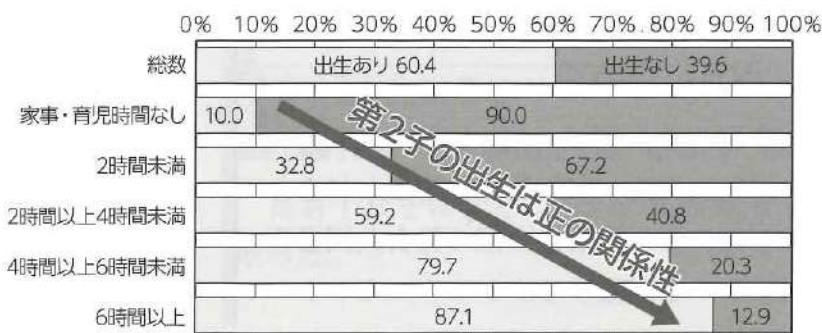


- (備考) 1. 日本については厚生労働省「国民生活基礎調査」、日本以外の国は、OECD「Pensions at a Glance 2023」より作成。
 2. 日本の高齢者は65歳以上である。
 3. 貧困率の定義は、OECDの作成基準に基づき、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分に満たない世帯員の割合。
 4. 基本的に令和2（2020）年の数値であるが、アイスランドは平成29（2017）年、デンマーク、フランス、ドイツは令和元（2019）年、日本、ノルウェー、スウェーデン、米国は令和3（2021）年。

第2子以降の出生状況

子供がいる夫婦の夫の
休日の家事・育児時間別にみた
第2子以降の出生状況

子どもがいる夫婦の夫の休日の
家事・育児時間別と第2子以降
の出生率は正の関係にある。



資料：厚生労働省「第14回21世紀成年者縦断調査」（平成27年）

名取先生のお話の後、質疑応答の時間に入りました。会場のあちこちから手が上がり、率直なご意見や質問が寄せられ、活発な議論が展開されました。

主な質疑応答の内容

◆ 第3号被保険者制度について

この制度は昭和の時代に制定されたもので、現代の社会状況にはそぐわないとの指摘がありました。介護などの事情で働けない場合はやむを得ませんが、配偶者が働ける状況であれば、年収130万円の壁に縛られず、積極的に就労することで生涯に得られる収入は大きく変わるという意見が出されました。

◆ 女性の総理誕生について

ジェンダー・ギャップ指数(GGI)の「政治」分野において、日本の順位は長らく低迷していましたが、来年は改善が期待されます。一方で、選択的夫婦別姓制度については30年前から進展がなく、高市総理が反対していることも周知されています。女性が総理や都知事になっても、社会全体が劇的に変わるわけではなく、今後も「高齢社会をよくする女性の会」の役割は重要であるとの声がありました。

◆ 「男女共同参画社会基本法」の改正について

今回の改正では、「独立行政法人男女共同参画機構」が新設されることになりました。この機構は全国の男女共同参画センターを支援するナショナルセンター

として機能し、地域の実情に即した支援が可能になります。制度的な裏付けが強化され、地域連携や人材育成の面でも大きな前進が期待されます。

◆ 一人暮らしの女性の貧困について

老後の生活を遺族年金に頼るのではなく、自ら働いて年金を得ることの重要性が強調されました。働くことの意義を若い世代に教育する必要があるとの意見もありました。特に離婚を経験した女性は、死別よりも困難な状況に置かれることが多く、生活に困窮した場合には生活保護を受けることは国民の権利であると確認されました。

◆ アイスランドの女性によるストライキについて

1975年10月、男女の賃金格差や政治進出の遅れに抗議する形で、アイスランドでは女性の9割以上が仕事や家事を放棄してストライキに参加しました。その結果、性別による賃金格差を禁止する法律が成立しました。こうした先人たちの行動が今の社会を築いてきたことを、若い世代にしっかり伝えていくことの大切さが語られました。

〈編集部註〉ドキュメンタリー映画『女性の休日』が2025年10月から劇場公開されています。

質疑応答は終始熱気に包まれ、参加者の皆さんの関心の高さと意欲が感じられる時間となりました。今後の活動へのヒントや励ましに満ちた、実りあるひと時でした。

(鬼塚信子・記)

昭和歌謡に見る女のあしあと

落語家 落語協会・真打（2016年）
林家 たけ平氏

たけ平師匠は落語家と講師の二刀流。おじいさんの影響で歌謡曲が大好きになり、落語家となっても、独自に研究を続け、熱海市民大学の「落語家が語る昭和の歌謡史」の講座を担当しました。スピード感と華のある話芸で今や人気の若手落語家です。
講師紹介：石井好子



元一っ流れ行く歌と書いて流行歌、「歌は世に連れせは歌につれ」と申しますが、歌を聴くだけでその時代がわかります。各年代に流行した歌謡曲が、どのような時代、世相を反映していたのでしょうか、女性の描き方を中心にお話しします。（以下全7曲を解説、CDに合わせて皆で歌う）

1 「東京ブギウギ」

歌手：笠置シズ子 作詞：鈴木 勝 作曲：服部良一 昭和23年

笠置シズ子は働く女性の象徴、戦争が終わって一番の稼ぎ手。戦争で旦那さんを亡くしたので、子どもを仕事場に連れて来て、1曲歌っては楽屋に戻ってお乳を飲ませていた。夜の女にも人気があり、作家の林芙美子や吉川英治も応援していたという。

2 「星の流れに」

歌手：菊池章子 作詞：清水みのる 作曲：利根一郎 昭和22年

元は「こんな女に誰がした」というタイトルだったが、GHQに対し反米感情を煽ると言われ、「星の流れに」と変えた。夜の女は昭和22年がピークで、推定で4万人。街には浮浪児、闇市、そんな時代の悲しい歌だった。

3 「うちの女房にゃ髭がある」(割愛)

4 「東京のバスガール」

歌手：初代コロムビア・ローズ
作詞：丘灯至夫 作曲：上原げんと 昭和32年

昭和30年代は女性の社会進出が著しかった。当時の若い女性の憧れだったバスガールは、路線バスに乗っていた女の車掌さん。女性車掌が廃止になり、この後はスチュワーデ

スが人気となった。ロカビリーブームが全盛。

5 「また逢う日まで」

歌手：尾崎紀世彦 作詞：阿久 悠 作曲：筒美京平 昭和46年

最初は「ひとりの悲しみ」というタイトルの反戦歌だった。「ふたりでドアをしめて」というように、別れを決意した男女の歌にして、ヒット。男が女を捨てるというこれまでの恋愛の描き方が変わった。

6 「狙いうち」

歌手：山本リンダ 作詞：阿久 悠 作曲：都倉俊一 昭和48年

昭和48年はオイルショック全盛、狂乱物価ウーマンリブの騒動でも当時はまだ男性上位の時代に、典型的な女性上位の象徴として山本リンダが登場。「この世は私のためにある」という歌詞が女性の共感呼んだ。

7 「人生いろいろ」

歌手：島倉千代子 作詞：中山大三郎 作曲：浜口庫之助 昭和62年

島倉千代子は女性たちへの応援歌として歌った。

この後高座に舞台転換して、新作落語一席。
(木村民子・記)

医療と介護の連携で安心の在宅ケアを —— 幸せな超長寿社会へ

総合司会：渡辺 敏恵

コーディネーター：石田 路子

シンポジスト

江口 満	厚生労働省老健局総務課長
高杉 邦幸	熱海市役所健康福祉部長寿介護課介護保険室室長
安達 昌子	医師 医療法人社団律昌会さくら医院理事長・院長
石橋真由美	熱海市社会福祉協議会介護サービス室主任介護支援専門員

熱海市の現状をふまえて

静岡県熱海市は、2023年3月の時点で高齢率が48.6%です。2040年に日本の高齢化率は35%になるとされていますが、熱海市では約15年前に35%を超えており、まさしく日本の超高齢社会を先取りしている自治体です。今回のシンポジウムでは、4人のシンポジストをお招きしました。

まず、厚生労働省老健局の江口満総務課長から、日本の介護保険制度の仕組みと現在の介護保険サービス状況と今後も制度の持続性を保ちながら、質の高いサービス提供を確保していくための課題について説明がありました。

次に、熱海市の健康福祉部長寿介護課保険室の高杉邦幸室長からは、熱海市における介護保険の現状を報告していただきました。熱海市も総人口が減少し続けている一方で、高齢者人口は増えています。但し、高齢者人口は2030年以降に減少すると予測されています。また、後期高齢者数の増加が著しく、単身高齢者の割合も全国や静岡県全体と比較して2倍以上に高くなっています。さらに、介護保険の受給率が高く、介護保険サービスの利用も増えており、熱海市でも介護人材の不足が問題になっています。

地域で訪問診療に従事している安達昌子医師からは、最期まで、その人らしい自律した



人生を支えるため、地域に根ざした医療支援の継続を目標とする、在宅緩和ケア充実診療所（機能強化型在宅療養支援診療所）の活動を報告していただきました。熱海市における在宅医療の供給体制は、今後の需要増加が見込まれているにもかかわらず地域完結率が低いのが現状です。近隣の複数の市町との連携も検討しつつ、地域の在宅医療の持続可能性を確認・検討することが必要であり、病院との連携も重要です。医療介護福祉従事者の数に限界がある状況で、相互の情報共有や連携体制の構築が必要とのことでした。

最後に、熱海市社会福祉協議会介護サービス室の石橋真由美ケアマネジャーから、熱海社協が実践している訪問介護事業および居宅介護支援事業について報告していただきました。介護保険サービスのケアプランを作成しているケアマネジャーの立場から、医療や医療関係者との連携が難しいことがある。また、ケアプランを作成する際に地域の介護保険サービスが不足している問題がある。そして、

高杉 邦幸 熱海市長寿介護課介護保険室 室長

熱海市の現状について



熱海市は伊豆半島の付け根にあり、相模湾に面し、小田原市と伊東市にはさまれている。面積は61.70平方キロメートル、人口は今年の7月末で32,985人。直近のデータでは減っている。1年あたりの介護認定は3,000件にのぼり、その件数も1人あたりの支給額も増え続けている。介護行政のため、市全体を3地区に分けている。南熱海地区は人口9,452人で高齢化率は44.3%、初島を含めた熱海地区は人口18,292人で高齢化率は47.6%、泉・伊豆山地区は人口9,452人で高齢化率は48.6%（いずれも人口は2025年7月末の基本台帳による）である。

2021年に35,721人だった人口は、基本台帳によると2024年には33,000人を下回り、その後は減少が続き、介護保険事業計画では2040年までに22,000人まで減少するとみている。このうち、65歳以上と75歳以上の人口は右のとおりで、75歳以上の人口は2026年をピークに減少する。それにともない高齢化率は増加していく。

人口構成の特徴は後期高齢者の増加が著しいことと単身高齢者世帯が多いことである。要介護認定者は要支援もふくめ、2022年までは3,000人に近かったが、2023年から2026年まで3,000人を超え、2026年以降は減少する見込み。要介護2の人数がもっとも多い。認定率でみると、2025年までは16%台から徐々に増加したが、2030年には20%を超える見込みである。認定率が上がるのは高齢者人口が減少するためである。介護保険のもとで何らかの介護サービスを利用している人の割合

は、2016年から2021年までは13%台だったものが2022年以降は14%台に増えている。給付月額でみると2019年までは2万円以下だったものが、2019年以降2万円を超え2024年には24,271円だった。内訳は在宅、居住系、施設サービスで在宅サービスがもっとも多い。

熱海市の課題は、後期高齢者と単身世帯が多く、介護保険の受給率が高く、サービスの利用が増加していることから、介護人材の不足が加速していることである。介護予防とフレイル予防、ICTを使っのサービス提供の効率化を市の施策として重要視している。医療と介護の連携の観点からも、一人暮らしの高齢者を地域で支えることと、高齢者が介護予防を生活の一部として暮らすことが大事だと思われる。

(林千根・記)

年	65歳-74歳	75歳以上 (人)	高齢化率 (%)
2025	10,580	5,505	49.0
2026	10,612	5,307	49.5
2030	9,749	4,820	50.2
2035	8,219	4,987	52.3
2040	7,243	4,990	55.6



熱海市における認定率の推移

安達 昌子 医師 熱海市医療法人社団律昌会さくら医院理事長・院長

— 地域で生活を支える医師の立場から



熱海市で2017年より在宅療養支援診療所を開設している安達昌子医師が、まず自身の診療所の目指すところ、①つなぐ・むすぶ・つたえる、②〈最期まで、その人らしい自律した人生〉の尊重・支持、③地域医療連携・多職種協働・在宅医療の推進および地域包括ケアシステム構築への貢献、④地域まちづくりへの貢献 について事例を交えながら話された。地域連携に関しては以下で説明があった。

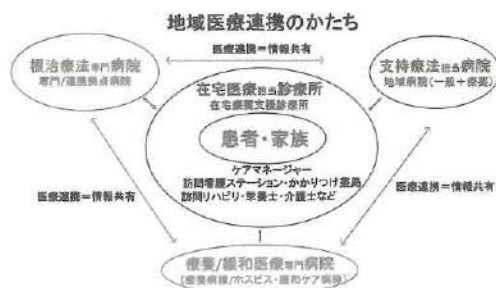


図1

医師は医療チームのリーダーとして〈最悪に備え、最善を尽くす〉役割を担い、多職種チームと連携して実働している。

静岡県医師会の助成金を得て「医療提供体制構築モデル事業」のアンケート調査を実施したところ、少ない人材で円滑に医療介護多職種連携・協同に向けて、多職種間での情報共有連携強化・ICTツール（しずケアかけはし）の活用・学術研修会・勉強会や連携症例での振り返りなどが今後にも必要との結果を得た。

基本的には厚労省のガイドラインの内容（図2）に示すように、療養しながらACP（人生会議）を本人・家族・医療チーム多職種連携で考えながら構築していき、どこで最期の時を過ごすか？どこで自分らしく生ききるか？を共有していくことが重要になる。

新しい「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」2018年3月～



図2

熱海市も高齢化率が高いレベルで、独居、少子化が進んでいる。それを支える介護専門職も高齢化が進み、従事者数も増える見込みは厳しい。限りある医療・介護・福祉の有識者専門職で〈チーム熱海〉として連携を強化し、適切な状況を継続していくことが重要になっている。在宅で療養する目的は、人間としての尊厳が尊重され、なじみの場所で、最愛の人々や安心できる医療者・介護者に支えられ、最期まで自分らしく生きることであり、地域の中で患者さん・ご家族が困ることなく過ごせる仲間づくりが重要である。地域の医師として、地域の患者さんが最期までご自身らしく過ごせるように、専門職チームと共に寄り添い、支え続けることが目標で、命のみならず希望をつなぐ連携を目指していきたい、と話を結ばれた。

語り口からは、日常の円滑なチーム運営に努めておられる熱意が伝わってきた。また、シンポジウムが終了すると、即、医療用着衣に着替え、早速日常の往診業務に戻られた安達医師の姿を拝見して、誠実に在宅医療に向き合う頼もしさと熱海市民に大いに頼りにされている様子が実感された。（渡辺敏恵・記）

石橋真由美 熱海市社会福祉協議会介護サービス室主任介護専門員

社協のケアマネジャーの立場から 幸せな長寿社会とは



本日のテーマである「幸せな長寿社会を創るために」、私ども社会福祉協議会では、地域の人々が住み慣れた町で、安心して生活することができる、福祉のまちづくりの実現を目指した様々な活動をしている。

私たち介護サービス室は、在宅で安心して暮らしていただくための支援をしており、平均寿命から健康寿命を引いた、いわば「不健康時代」の方々のお手伝いをさせていただいている。厚労省の研究結果によると、男性は8.49年・女性は11.63年ある。一般的に男性は8年以上、女性は11年以上介護を受けて生活する時代がくるということだ。

このたび、このお話を受けてから、市内の全てのケアマネジャー・包括ケアセンターの職員にアンケートをさせていただいた。

ケアマネジャーの立場からすると、病院や開業医との考え方の違いや伝え方の難しさを感じることもある。一方で、訪問診療の医師や看護師とは、比較的連携をとりやすいという意見も多くあった。

次にケアプランを作成する際の地域のサービス不足である。特に訪問介護や訪問看護の人手不足が深刻で、事業所が見つからない、希望の時間に入れない、といった声は多くあった。また、土・日や余暇の対応が難しく、利用者の希望に十分沿えないことがあり、このままでは、数年後はどうなるかといった不安の声もあった。人材確保はもちろんだが、地域全体でサービスをどう支えていくかを一緒に考えていく必要がある。

ケアマネジャーのシャドウワークについては、どこまでがケアマネの仕事かわからない、

「気づいたらやっちゃっている」という声が多くあった。独居の方や支援者のいない方では、受診の付き添いや手続きのサポート、緊急時の対応など、どうしても援助が必要な場面がある。制度の枠では支えきれない現実もあって、そこに葛藤を感じている人も多いようだ。今後は「出来ること」、「出来ないこと」の線引きを話し合いながら、無理のない支援体制を考えていくことが必要だと思っている。

全体を通じて感じたのは、人同士のつながりが支援の最低限の基準だということだ。医療や介護、地域がそれぞれの立場を理解し合い、協力しながら、利用者さんにとって安心できる環境をつくっていきたいと思う。

ところで、幸せな超長寿社会に向けて社協から地域の皆さんにお願いしたいことがある。

地域に住む、要介護ではない独居や老々夫婦に対して、ゴミ捨て、掃除、洗濯など簡単な家事や買い物など、日々の生活の中でできることを手伝っていただけたらと思う。

要介護認定を受けた方に関しては、プロの介護者がきちんと対応させていただくので、それ以前の高齢者家族に対して、地域の皆様の温かい手助けをいただければうれしい。

地域包括支援センター熱海市では、行政、社協、企業、さまざまな介護・福祉サービスやボランティア団体と協力して、高齢者を支えている。お困りの際は、お気軽に相談してほしい。

誰もがいつかは介護サービスを受ける時代が来ることについて、これからみんなと一緒に考えていければと思う。 (稲葉敬子・記)



会場からの声



最初に渡辺副理事長が、シンポジウムでも言及されたACP（人生会議）の重要性を説明。元気なうちから自身の人生の生き方を考え医療・介護をどう受けるか、最期までどう生きるか？を書き込んでいく〈私の生き方連絡ノート〉（自分らしい「生き」「死に」を考える会編EDITEX社）も全員に配布された。今日のシンポジウムの内容を自分事として理解し、これからの人生にぜひこのノートを役立ててほしいとのコメントがあった。

Q1 ケアマネジャーの方：訪問介護員不足について、ボランティアにも限度があると感じている。65歳以上の高齢者でも元気な方は多いので、ヘルパー養成講座を開いて、人材を育ててはどうか。要望ということ。

Q2 松山の会員の方：地域で親しくしている独居の方が急に入院し、後見人は遠方で連絡は困難だった。やっと入院先を探して行くと転院した後で、転院先は教えてもらえず、大変心配な思いをした。近所で親しくしていてもこういう形で絆が断ち切られるのは困った事と感じている。友人との関係が保てるようにならないものか？

A 石橋氏：個人情報の保護からどうしてもすぐには情報が伝えられないが、人間関係が途切れてしまうことは困った事だと感じている。

A 江口課長：身寄りのない高齢者は増加していくので、今後どういう形で支援していくかを、厚労省の別の部署で問題意識をもって取り組んでいかなければと思っている。

Q3 高齢者で独居の方：ケアマネジャーの5年に一度の資格更新が費用も時間もかかって大

変だと聞いている。人材不足と聞くが今後の対策は？

A 江口課長：昨日の社会保障審議会介護保険部会でこの制度の改善案が示され、この制度は廃止される見通しである。

Q4 大阪の会員の方：大阪市の介護保険料は日本一高額であることをどう考えるか。

A 江口課長：（課長より介護保険料の仕組みについて説明があった。）大阪市の「事情分析」についても参考にしていきたい。

Q5 会員の方：石橋さんの資料で省かれた部分は何か？

A 石橋氏：皆さんがご存じかと思い省いたが、介護保険は前もって申請しても、実際使用するときの状態を再認定するものなので、使うときに申請すればよい。また介護度が上がると料金も上がる事も知ってほしい。

Q6 熱海の前看護師で看護教員の方：介護の人材不足は深刻で、高齢者の介護人材の育成には限度があり、やはり若い人材を教育して育てたい。しかし、若い人は都会志向が強く、地方の看護学校には入学しない。自治体として何ができるか、考えていく必要を感じる。

A 江口課長：少子高齢社会を迎え、介護人材確保は介護保険制度の問題の中でも基盤となる大きな課題だ。地位の向上も政策として、またテクノロジー導入も含め、現場の声も聴きながら総合的に進めていく問題と考えている。

現状を鋭く反映した質問・発言に回答にも熱が入り、実りある締めくくりであった。

（Q&A／渡辺敏恵・記）

熱海大会交流会

エフエム熱海湯河原のパーソナリティ石田江利さん、稲葉敬子理事の司会進行により、木村民子理事長、齊藤栄市長の挨拶に続き、元熱海女性連絡会会長の瀧野慶子氏の乾杯でぎやかに開幕した。熱海市笛伶会の太鼓演奏のあとは毎年恒例の「北から南から」が、石田副理事長、昼間理事の進行で始まった。会場の10のテーブルは地方ごとに分かれ、準備会も含め代表の方にその場でマイクを渡し



た。大阪の植本さん、松山の篠崎さん、徳島の藤田さん、前回大会豊田の後藤さん、埼玉からは柿沼さん、小田原の原田さん、北海道の矢野さんが、それぞれの日ごろの活動を含めて近況を報告した。

(昼間洋子・記)



閉会式

木村民子理事長挨拶

「今大会はわが夫の多大なる力を借りながら、まさに男女共同参画で、開催準備を進めてきました。今無事に終わることが出来、ようやく肩の荷が下りました。次の全国大会は東京です。皆さま、東京でまた会いましょう」



大会旗引継ぎ

熱海大会準備会の木村栄氏より大会旗が次期実行委員長 渡辺敏恵副理事長に渡された。



10/28
オプションツアー

まち歩き 湯けむり コース



全国大会2日目終了後のオプション企画として「熱海まち歩きガイドの会」の3人が、28名の参加者をご案内しました。海と山に抱かれ、古い歴史を持つ温泉の町・熱海には見どころが多いのですが、13時スタート～14時30分終了という限られた時間のため、テーマを2つに絞りました。

まず「熱海と徳川幕府の関係」。最初に訪れた市役所は、江戸時代に3代将軍家光が湯治のため建てた「熱海御殿」があった場所で、後に大正天皇の保養所「熱海御用邸」を経て

現在の市役所となったことを説明。また家康公が関ヶ原の戦い前後に2度湯治に訪れた話も紹介しました。前回大会地・豊田市からの参加者も多く、徳川ゆかりの話題に興味深く耳を傾けていました。

次に「大湯間欠泉と湯前神社」。世界三大間欠泉の一つとされる自噴泉の歴史を紹介し、現在は約5分ごとに人工的に噴湯して往時を再現していることを説明。突然吹き上がる湯と湯煙に、皆さんから歓声が上がりました。

このあと、出発点の大会会場・起雲閣まで戻るのですが、熱海芸妓見番前を通り、かつて熱海は1,200人の芸妓がいたことなどを説明しました。

前日までの雨も上がり、参加者はのんびりと熱海のまち歩きを楽しまれていました。

ここまでの歩行距離は約1.5km。歩数2,400歩でした。

(熱海まち歩きガイドの会 山口正幸・記)

起雲閣



市役所
(熱海御殿↓御用邸)



大湯間欠泉



湯前神社



熱海芸妓見番前
↓起雲閣

起雲閣

(熱海市指定有形文化財)

スルーガイド

市街地とは思えない緑豊かな庭園。日本家屋の美しさをとどめる本館（和館）と離れ、日本、中国、欧州などの装飾や様式を融合させた独特の雰囲気を持つ洋館。優美な気品を醸し出すこれらの施設は歴史的・文化的遺産として未来に継承されます。

(説明：中島美江統括)



サンルームの窓と天井



根津嘉一郎による洋館「玉姫」

10月28日、閉会セレモニー・参加者全員の記念写真撮影等すべての行程が終わった後、起雲閣一周ガイドが始まりました。

起雲閣は、政治家であり実業家であった内田信也、根津嘉一郎、桜井兵五郎、3人の手を経て、現在は熱海市が所有しています。

3代目桜井兵五郎が、昭和22年にオープンした旅館「起雲閣」は50年以上続き、山本有三、志賀直哉、谷崎潤一郎など著名な文人墨客が



宿泊する熱海の名旅館になりました。太宰治は自殺する数日前に泊まったと伝えられています。

1班をベテランガイドの曾根正子さんが、少し遅れて2班目を鎌田が担当しました。貴重な銘木が使われている和館や工芸品を散りばめたような華やかな洋館をご覧いただきながら、ゆかりある文豪のお話などをさせていただきました。「広いですね」「説明があつてよく分かりました」「文豪がここに集まったのですね！」などのお声を聞き、「また来ます」と言われた方もいらして、2人で嬉しくホッとしました。

起雲閣一周はこうして無事終了いたしました。皆様にとって熱海でのもう一つの思い出になりましたら幸いです。この度のご参加、誠にありがとうございました。

(起雲閣ボランティア会 鎌田洋子・記)

Special Thanks to

齊藤熱海市長



Y.N.さん



Y.I.さん



林家たけ平師匠



T.N.さん



熱海市／長寿介護課、生涯学習課、医師会、社会福祉協議会、及び準備会の皆様

「協賛金」ご協力御礼

大会の成功を願いながら、皆さまに協賛金のお願いを申し上げましたところ、かくも多くの方々にご協力をいただきました。

お名前の掲載をもって、心からの御礼に代えさせていただきます。

理事長 木村民子

グループ会員・賛助会員

北海道の高齢社会をよくする女性の会
高齢社会をよくする女性の会あしがら
高齢社会をよくする女性の会・岐阜

やはぎ会inとよた
高齢社会をよくする会・米子
株式会社学研ココファン

個人会員・一般

(五十音順)

相場みよ子	阿達まさ子	安久美与子	池谷 照代	石川真智子
伊藤 恭子	稲葉 敬子	大井 庸子	大熊悠紀子	太田 千鶴
小賀野晶一	奥山みつ子	鬼塚 信子	尾藤 順子	柿沼トミ子
柿原 節子	片倉す寿子	河合 一乃	川崎 久子	川島 文代
岸 典子	木村 朝子	木村 民子	久保 欣一	熊崎 清子
小泉 栄子	小泉 キヨ	河野 澄子	後上 民子	後藤 夏代
木間 昭子	斉藤美智子	佐竹美弥子	佐藤 千里	潮谷 義子
白井千賀子	杉 啓以子	洲崎 一雄	鈴木 威雄	関谷 行子
千艘美保子	袖井 孝子	高口 光子	高橋 政春	武久 洋三
多田 育代	田中ハツ子	田中 裕子	玉木 康平	千葉 道子
月井貴美代	土田アイ子	時田佳代子	友田 秀子	長島 和子
仲田 明子	中野 恭子	並木きょう子	並木 照夫	西島 祐子
西原美穂子	丹羽 純子	野田那智子	野田真智子	畠山あゆみ
林 千根	坂 和子	樋口 恵子	常陸 れい	福井 朝子
藤木 宏子	本間まり子	松田 敏子	松村 美保	間宮 裕子
宮崎 冴子	村瀬 有子	安枝 由美	山田 和美	横路由美子
吉村菜穂子	鷺崎 千春	渡辺 明子	渡邊 幹夫	渡辺 雄幸
匿名希望 (2名)				



本の紹介



『介護保険は崖っぷち —私たちのケア社会をつくるには』

上野千鶴子、樋口恵子、
ケア社会をつくる会 編
岩波書店 780円+税

2025年4月に介護保険のスタートから四半世紀を迎えるのを前にして、2024年9月16日、朝から晩まで8時間にわたるマラソンシンポジウム「こんなはずじゃなかった、介護保険—私たちのケア社会をつくる」が開催されました。本書はその記録に基づいて編集したブックレットです。シンポジウムには、介護保険の創設にかかわった元厚生労働省の官僚や高齢社会をよくする女性の会のメンバー、事業者、利用者家族、自治体首長、研究者らが参加し、訪問介護の危機や財源の問題などについて率直に語り合いました。

利用者負担を原則1割から2割に、要介護1・2を介護保険から外す……。樋口恵子さんと上野千鶴子さんが中心になってこうした改悪案を押し返してきましたが、いまや介護保険は「崖っぷち」に追い込まれています。介護保険四半世紀の歩みを総点検し、これからを考えるために、ぜひお手に取っていただきたい一冊です。

(岩波書店編集部 藤田紀子)

> 事務局だより

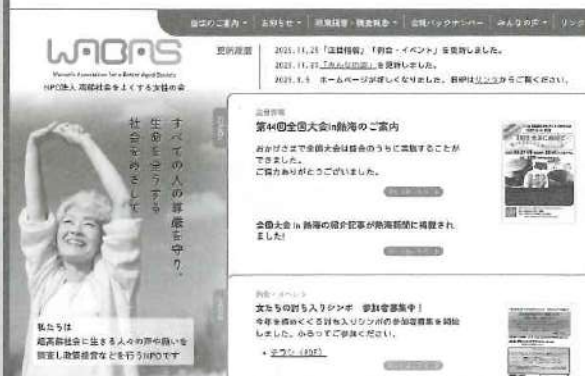
☆「介護保険追跡調査」「戦後80年手記募集」にご協力ありがとうございました。

☆会費納入未確認の会員様に再請求の用紙を同封いたしました。入れ違いにご送金の方にはお詫びいたします。ご不明の点をご遠慮なくご一報ください。

☆猛暑に振り回された今年も暮れようとしております。皆様よいお年をお迎えください。年明けは3月に例会を予定しております。同封チラシをご覧ください。(事務局)

WABASホームページ リニューアルのお知らせ

2025年9月5日に本会のホームページを全面的にリニューアルいたしました。



 **より明るく
わかりやすいデザイン。**

 **スマートフォンや
タブレットでも見やすい。**

なお、旧HPも新HPからリンクで見ることができます。どうぞ新しいHPにアクセスしてご覧ください。



URL : <https://wabas.jp>

編集後記

今号は16Pの大半を「全国大会in熱海」の報告書の代わりとして特集いたしました。両日共に充実した内容や、熱気、歓喜が伝われば幸いです。(木村、鬼塚)